

胃がんリスク検査(ABC分類)の説明

ABC 分類とは胃の健康度を調べる検査で、胃粘膜委縮マーカーであるペプシノゲン検査と胃がんや胃潰瘍・十二指腸潰瘍の原因と言われているヘリコバクター・ピロリの抗体価検査の2種類の血液検査を組み合わせて、胃がんなどのリスクをA、B、C、Dの4群に分類して評価する検査です。

ペプシノゲン検査

食べ物の消化に関与するペプシノゲンという物質の血中濃度を調べることで胃粘膜の萎縮（老化）の状態を客観的に調べる検査です。

ヘリコバクターピロリ抗体検査

胃がヘリコバクターピロリ菌に感染していないか調べる検査です。ヘリコバクターピロリ菌は胃酸の分泌や胃粘膜の免疫能の働きが不十分な幼少期頃までに感染すると考えられ、大人になってから感染することは稀だと言われています。ただし、ヘリコバクターピロリ抗体が陰性（－）の人にもごく稀ですが胃がんが発見されることがあり注意が必要です。陽性（＋）の方は、医療機関でのピロリ菌の除菌治療をおすすめします。

A B C 分類		ヘリコバクターピロリ抗体検査	
		(－)	(＋)
ペプシノゲン検査	(－)	A 群	B 群
	(＋)	D 群	C 群



A群

健康的な胃粘膜と考えられます。ピロリ菌の感染はほとんどなく、胃がんなどの病気になる危険性は低いです。ただし、稀にこの群の中から胃がんが発生することがあるため、定期的に内視鏡検査を受けましょう。



B群

胃粘膜が少し弱っています。ピロリ菌に感染しており胃がんなどの病気になりやすいリスク群と考えられます。胃潰瘍や十二指腸潰瘍の場合もピロリ菌が関与していますので定期的な内視鏡検査を受けましょう。



C群

現在、胃粘膜が弱っている状態です。ピロリ菌の感染と胃粘膜の萎縮が進行しており、その結果、胃がんなどの病気のリスクが高まっています。このため、内視鏡による定期的な検査を受け、病気の早期発見・早期治療に努めることが重要です。



D群

かなり弱った胃粘膜です。胃粘膜の萎縮がさらに進行し、ピロリ菌も生息できない状態と考えられますが、胃がんなどの病気になりやすい高危険群に該当するため、必ず内視鏡検査を受けましょう。